

ドッグセラピーに取り組む野田さん。
犬と触れ合える子ども食堂を始めた



NPO法人ドッグセラピージャパン理事長

野田久仁子さん(45) 小倉北

小倉北区片野で7月、犬と触れ合いながら心を癒やす「ドッグセラピー」を取り入れた子ども食堂を始めた。「子ども食堂

毎月最終金曜の夕方、

自身が経営する犬カフェが「かたの子ども食堂」に変わる。食事前、子供たちは犬の体をなでたり、抱きかかえたりして触れ合える。参加費は小学生100円、高校生以上300円。集まる小学生らの多くは共働き世帯や、犬が飼えないマ

ンちゃんに会える」と楽しみにしている。子ども食堂では、部屋を元気に走り回っていた男児も、数日前に生まれた子犬が連れてこられると両手でそっと抱き上げて「え、こんなに小さいの」と笑顔を見せる。接し方を教わったわけではないのに、その姿は優しさにあふれる。子供たちは犬と約1時間遊ぶと、手を洗って会場にテーブルや椅子を並べ、ボランティアの大学生や

心癒やす子ども食堂

住民たちとカレーライスなどの手料理をほおばる。

「知人が飼えなくなった犬を動物愛護センターに連れて行こうとしたので、私が引き取った」。2006年、経営するペットショップで客から聞いた話にショックを受けた。センターには野良犬



だけでなく、飼い主の引越しや高齢を理由に預けられる犬がいることを知り、店のスタッフらと動物の命の大切さを伝えるピラを街頭で配るようになった。そんな折、高齢者施設で開いた犬と触れ合うイベントで、普段笑わない利用者が犬を抱いて笑顔を見せた姿から、犬に人を癒やす力が

「触れあいで命の大切さを感じてくれる」

あると感じた。13年、ドッグセラピー活動や犬を通じた心の教育に取り組むNPO法人ドッグセラピージャパンを設立した。

子ども食堂を始めるきっかけは、犬カフェで心を癒やす不登校の小学生との出会い。子供にも命の大切さを伝えたいという思いもあった。セラピー犬は、人に触られても暴れたりかみついたりしないよう訓練されている。子ども食堂ではボランティアらが犬との接し方を説明するが、子供たちは自主的に「犬が驚くから大きな声を出しちゃだめ」と互いに注意し合うなど、犬に対する気遣いも見せる。

「私たちが教えなくても、子供たちは触れ合いで命の大切さを感じてくれる」。子ども食堂はスタートしたばかりだが、手応えはある。

【松田栄二郎】